

山崎正志先生が胸椎後縦靱帯骨化症（OPLL）の手術治療の進歩について特集を組んでくださった。相当な思い入れがあるからだと思う。

私も山崎先生と同様に、この胸椎 OPLL についてはかなりの思い入れがある。理由は、自然経過をみていると急激に悪化し、保存療法は効果がなく、そして手術を行っても術後麻痺が高頻度に発生したからである。脊椎脊髄疾患の中で最も治療難易度の高い疾患の1つであろう。

国文正一先生が2002年の特集を編集された当時、胸椎 OPLL に対する手術治療は混沌としていた。椎弓切除術、前方除圧固定術、後方進入脊髄前方除圧術（いわゆる大塚法）、脊髄全周除圧術などの術式が行われていたが、いずれの術式においても術後麻痺が高頻度に発生していた。それゆえ難治性疾患の筆頭に挙げられていた。

麻痺がなぜこれほど起こるのか？理由の1つとして、胸椎は後弯しており、胸椎 OPLL によって前方から圧迫された脊髄を除圧するにあたって、後方から椎弓切除しても除圧は不可能である。さらに、後方要素破壊のため、より後弯が進行して脊髄圧迫はより強くなり麻痺が進行する。2つ目の理由として、上位から中位胸髄の血流動態は前脊髄動脈の分水嶺であり、脊髄血流が悪いことが挙げられる。もともと脊髄血流の悪い胸髄が OPLL で前方から圧迫を受ければ当然麻痺の危険度は増す。

約20年経過して、この難治性胸椎 OPLL の手術成績を向上させたのは脊椎インプラントの進歩、脊髄モニタリング、超音波メスの活用、そしてわれわれの病態理解度の向上が挙げられると思う。

山崎先生は、この進歩をそれぞれの著者に託して今回の特集を組まれた。大変読み応えがあるシリーズになったと思う。是非、難治性脊椎脊髄疾患と闘ってきた脊椎外科医に一読をお勧めする。

(松山幸弘)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 金田清志 小柳知彦
田代邦雄 国分正一 服部孝道

編集委員

山崎正志（編集委員長）
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
高見俊宏 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘
安原隆雄

Vol. 37 No. 6
(2024 年 7 月 3 日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,500円＋税）
(配送料別)

年きめ予約購読料 33,300 円＋税
送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷綱ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当：山岸)

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2024,
Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail : info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。